

復活節第二主日説教

2017年4月23日、関口教会

[\[聖書朗読箇所\]](#)

説教

今日は、復活の第二主日です。

聖ヨハネ・パウロ二世によって、「神のいつくしみの主日」と名付けられております。

2015年12月8日から、昨年(2014年)の11月20日、「王であるキリスト」の日までの1年余り、「いつくしみの特別聖年」をわたしたちは祝いました。

神はいつくしみ深い方であることを深く学び、そして、わたしたちもいつくしみ深い者であるようにと努める、特別な1年でした。

神のいつくしみを知り、いつくしみに生きるということは、わたしたちキリスト者が、毎日心掛けるべきことです。

イエスの弟子たちは、イエス・キリストに出会い、イエス・キリストから神のいつくしみを学び、そして、キリストの復活という出来事に出会って、わたしたちの教会を創立しました。

いま、読まれた福音は、ヨハネによる福音の20章です。ヨハネによる福音が伝えられているところを、今日、分かち合いたいと思います。

「週の初めの日の夕方」という言葉から始まっております。「週の初めの日」というのは、今日(こんにち)でいえば、日曜日に当たります。

弟子たちは、どちらかの家に集まって、その家に鍵をかけていた。それは、ユダヤ人が恐ろしかったからです。イエスの身の上で起こったこと、それは、非常に残酷な、恐怖を起こさせる出来事でした。弟子たちは、イエスを裏切り、見捨て、逃げてしまいました。

どちらかの家に集まって、肩を寄せ合っていたのでしょう、家に鍵がかかっていたにもかかわらず、イエスが入って来られて、

「あなたがたに平和があるように」と言われた。

どのようにして、扉を叩いて来たのでしょうか。

「あなたがたに平和があるように」。

この言葉を、司祭はミサを献げるときに、何度も唱えます。そして、わたしたちも、手紙を書くときなどに、挨拶として使っている言葉です。

「平和」とは、旧約聖書以来、使われている、非常に重要な言葉であり、欠けたところのない神のみこころが、十分に実現している状態であるとされています。

この場合、弟子たちにとっての「平和」は、何であるか。ユダヤ人に逮捕されたり、処刑されたりするという恐れもあったでしょうが、恐らくは、何よりも、主イエスと離れている状態、イエスが取り去られてしまった。そして、自分たちは彼らを見捨て、彼らはイエスを見捨ててしまった。いわば、「裏切ってしまった」という罪の意識、後ろめたさが、彼らの平安を奪っていたのではないかと思います。

「あなたがたに平和があるように」
とイエスは言われたので、彼らの心は平和で満たされました。

「弟子たちは、主を見て喜んだ」
とあります。

そして、更に、イエスは彼らに聖霊をお与えになりました。

「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される」。

イエスから、罪の赦しを受けた弟子たちは、更に、人の罪を赦すことができるように、聖霊を受けました。

さて、その大切な場面に、12人の中で1人の弟子、トマスは居合わせなかった。疑い深いトマスと言われますが、トマスはイエスのご出現を信じなかった。トマスは、それから8日後、つまり、今日の典礼は復活の日から2週間目を想定した日ですが、トマスの前に現れて言われた。

「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである」。
トマスは、イエスに答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言いました。

さて、今日の第二朗読におきまして、最初の教会の人たちのことが述べられています。

「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています」。

わたしたちは、すでに、復活の出来事があってから、2千年以上経過しているときの信者です。ペトロの手紙の相手となっている人たちは、復活の出来事を信じている神の民、いつ頃のことでしょうか、1世紀か2世紀の初めか、大部分の人が、地上のイエスに出会ったことのない人たちであろうと思われれます。

イエスに会ったことがない、復活したイエスに出会ったことがないのにもかかわら

ず、イエスを信じている、そのように著者が言っている。わたしたちの方は、更に、そのようなことになる。

わたしたちは、復活を信じ、キリスト者となっております。現代において、復活を信じて生きるということは、更なる努力が必要です。たびたび、神の言葉、キリストの言葉を聞き、ご一緒にお祈りし、励まし合い、困難の中に、神の導き、復活の光を見つけるように努めなければならないと思います。

わたしたち教会は、キリストの復活を告げ知らせる、神の民です。キリストが復活した、死と罪に打ち勝ったという信仰を、人々に表す団体、イエス・キリストが、いまでも復活して、わたしたちのところに來てくださるという信仰、イエス・キリストの復活の現存、復活したイエスがいてくださるという信仰を表す、そのような印である教会です。

わたしたちを見て、イエス・キリストの復活の印があると、多くの方が見てくださるような、わたしたちでありたい。

そのためには、わたしたちは、よく祈る神の民、神のいつくしみを実行する神の民、お互い助け合っている神の民、最初の教会のような教会でなければならないと思います。

聖書朗読箇所

第一朗読 使徒言行録2 42-47

第二朗読 一ペトロ1・3-9

福音朗読 ヨハネ20・19-31

[説教へ戻る](#)